

いたばし

「身近なものにアンテナを立てておくと、

ビオトープ

地球の異変に気づくことができる」

ネットワーク

学校訪問シリーズ 7



環境教育一線のカーテンでプリンスメロンに取り組んで
板橋区立志村第四中学校

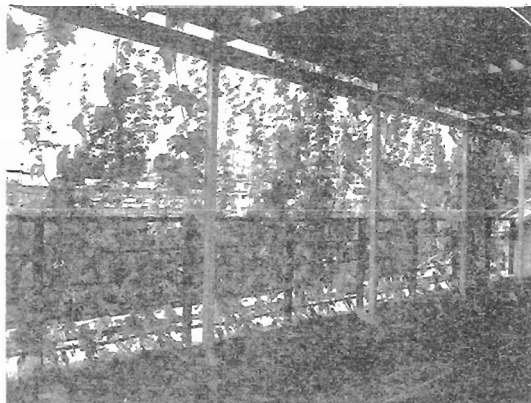
総合的な学習の時間での環境教育で、区内6校の一つとして、昨年からの緑のカーテンに取り組んできた事はご存知の方も多いにちがいない。今年は、さらに同じタの絡むプリンスメロンの栽培に取り組み、初めて行われる板橋、緑のカーテンコンクールにも応募している。

イチヨウが見事に黄色に染まったある日、中澤正人校長先生と、理科専科の谷廣明先生にお話を伺うことができた。

Q 谷先生は、環境教育についてどう思われますか。

谷先生—環境について、身近なものにアンテナを張って

おくと地球環境の異変に気づきます。先月、巣鴨の駅前で、沖縄・石垣島に生息している“ツマグロヒョウモン”を見ました。温暖化が進んでいるのがよくわかりました。志村四中は、前年から、緑のカーテンをやっているので、続いて今年も取り組みました。



昨年緑のカーテンサミットに出場した志四中のテーマ「地球環境を考えながら 学習環境をよくしよう。体験を通して緑のカーテンづくりから学ぶ」。

取り組んだ理由は、教室が40度以上になり扇風機を回しても熱風がくるだけ温度は下がらず、授業中のぼせて鼻血が出たり、気分が悪くなったりする生徒が出る等学習環境としてはかなり悪い状態であった。そのため、今年度は4階のベランダにヘチマ、ゴーヤ、キュウリなどを植えて緑のカーテンをつくる事にした。(05年12月26日のサミット発表レポートより抜粋)

—緑のカーテンの効果—05/9—

緑のカーテンのない教室 最高気温 45度 (ベランダ 44.8度)

緑のカーテンがある教室 5教室平均 36.8度 (ベランダ平均 37度)

葉が空さかけた9月の緑のカーテンでも、効果は明白になった。

Q 今年はどうな取り組みをしましたか。

谷先生—1年生は総合的な学習で、教科を越えて取り組み、4教室に緑のカーテンをつくりました。1階は、心身障がい学級が取り組みました。転勤してきて、自然科学部を立ち上げて、プリンスメロン作りに取り組みました。前任校で、ゴーヤをつくったら、地域から問い合わせがあり、これは、食育教育になると考えました。

Q 栽培でどんな苦労がありましたか。

谷先生—カボチャもつくったが、うどん粉病が出て、葉が白くカビが生えました。牛乳を薄めて撒いたがだめでした。木酢液も使ったが、葉が焼けてしまいました。7月中は日照時間が少なくて8月になってやっと伸びました。メロンは少し固かったが、食べられるものことができました。

Q 生徒の反応はいかがでしたか。

谷先生—実がぶら下がってくると、寄ってきてくれます。作業は部活の生徒と他の生徒のボランティアが参加して行われました。

Q 部活の生徒は何人ですか。

谷先生—3人です。(今年発足)

Q 部活でやったカーテンの長さや設備などどんなですか。

谷先生—部活で2クラス分です。ブレンダー・ネットは昨年のもを使い、横に張るワイヤーを新しくして8万円程度かかりました。

Q 総合的な学習でやれることは

谷先生—水の循環などの学習です。雨水など、次世代の水事情も見ます。バングラデシュでは、地下水にヒソが含まれているため、体に悪い作用をしています。日本のボランティアが雨水の取り方を教えに行ったりしています。雨水が汚いと思っていたが、実はきれいだとわかりました。雨水の利用による緑のカーテンの学習で、地球規模の課題の学習ができる。世界は今も昔も、水で戦争をしています。

1年生は、光合成の学習。BTB溶液を使う。オオカナダモにBTB溶液を入れ、緑にしておき、10分陽に当てると青くなる。水の中から二酸化炭素が減っていく。溶液がアルカリに変わる。光合成で、緑ができ、二酸化炭素が減る事がわかります。

植物の蒸散作用を学ぶのに緑のカーテンが役立つ。緑のカーテンは、中に水が通っていると考えることができます。葉に一枚ずつ、袋をかぶせて水滴が出てくるのを見ます。

Q 今、いじめなど子どもの心の問題が課題になっています。環境教育と心の教育はつながりますか。

谷先生—つながります。植物はうんとケアしないと枯れてしまいます。人間も同じ。人に対してはわり、丁寧な働きかけが必要です。命を育てる活動が心を育てるなど。総合などで取り組む時、園芸など先生方の経験がないことが課題でもあります。

Q 今後の取り組みは。

谷先生—来年はスイカに取り組もうと思っています。各クラスの前は、そのクラスの希望を叶えていけばいいと思います。子どもたちはけっこう面倒を見ます。

Q 校長先生の願いはどのようなものでしょうか。

中澤校長先生—今の子どもたちは豊かになりすぎて、何でもあるのが当たり前になっています。どんな苦労を経て出来たのかを知らないのです。ものを大事にする事、もったいないと思うことを考える子どもを育てたい。電気・ガス・水道の無駄使い。誰もいない教室に、電気がついている。ストーブもついている。ちょっとしたことを実行できるなら、温暖化防止に役立つ。地球規模の問題を身近に感じて欲しい。自分もやろうという取り組みになるように。自然破壊が進む→自分の生活に影響がある と感じる生徒を育てていきたい。



谷 廣明 先生



中澤 正人 校長先生

「校庭の落ち葉掃き」を生徒会がボランティアを募って1週間取り組んできたそうです。緑のカーテンにも参加した1年生に感想を聞いたところ、生き生きと答えてくれました。

Aさんーこの学校をきれいにしたいと思った。楽しかった。すっきりした。

緑のカーテンでクーラーを使わないで、教室が涼しくなった。やってよかった。

Bさんー落ち葉掃きに積極的に参加した。やってみて楽しかった。緑のカーテンは土と肥料をまぜるのが大変だった。

Cさんー友人がやっていたので参加したら、公園などを清掃している人の気持ちがわかった。緑のカーテンは、あんなもので涼しくなるのかナーと思っていたが結構涼しくなった。

Dさんー自分たちの学校は自分たちできれいにしようと思った。友だちと一緒に楽しかった。緑のカーテンは見た目もきれいだった。食べられる実、カボチャがおいしかった。



志村四中にも専用の落ち葉溜めがあります。

志四中が緑のカーテンコンクールで NPO 法人 体験学習支援センター賞を受賞



12月9日(土) ハイライフプラザいたばしで緑のカーテンフォーラム2006が開催されました。緑のカーテンコンクールの表彰式も行われ多くの応募団体の中から、NPO 法人 体験学習支援センター賞を受賞しました。(緑のカーテンフォーラムは次号で特集します)

センスオブアース '07.1月のイベント

川越市今福の雑木林で自然の大切さ、すばらしさを感じてください

雑木林を生き返らせ、焼き芋、豚汁、餅焼きも楽しむ会《要・申し込み》

'07年1月13日(土) 現地9時集合 参加費:ひとり400円(保険・食事代含む)

集合場所:9時00分 東武東上線川越駅改札口(川越市観光案内所付近)

持ち物:よごれてもいい服と軍手、防寒着、飲み物(水筒など)、タオル、自分用のお椀とはし

川越市今福の雑木林で落ち葉はき、カブトムシの幼虫探し、たき火で焼き芋、豚汁づくりなども楽しみながら雑木林が人や自然の共生生活にどんなに役立っているかを知ることができます。

野菜のおみやげもあります。(住所ー川越市今福708周辺の雑木林。川越駅よりバス15分)

このイベントは事前のお申し込みが必要です。

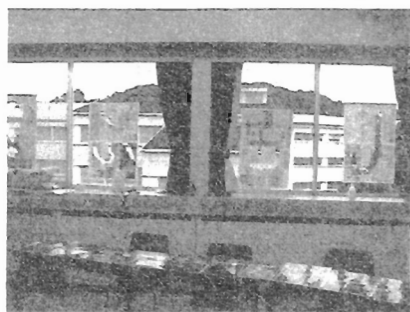
下記メールまたは、FAXにて『お名前・電話番号・参加者数を明記のうえ』お申し込みください。

メール: info@npo-soe.jp FAX: 03-3960-6053

2006年 日女祭 自然探偵団の部屋 OPEN!!

自然探偵団2年目の今年は、新メンバー&沖縄エコツアーも加わって、楽しくバラエティーに富んだ発表ができました。さあ、皆さんを手作りの本女の森 2006 ver. にご招待しましょう!!

ARE YOU LEADY!/?



今年も恒例の廃物利用の看板
(古新聞の切り抜き文字で...)

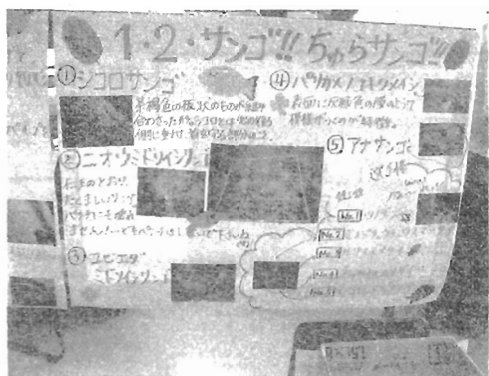


子どもにも、興味がわく展示やあそびがたくさんありました。



進入部員もいっしょに
楽しい準備

自然探偵団は、
センスオブアースのエコツアーに
参加していただいた日本女子大学の
学生のかたが設立したサークル
今年のエコツアーのレポートも
展示されていました。



その他、エコチェックシート (地球温暖化)、はてなボックス (その1:サゴ その2:へちま)、生田緑地観察会の様子、虫の声)、落ち葉で神経衰弱、サゴの観察、新部員紹介 etc

お客さんの声

- ・自分の家の身近なところにいろいろと自然が残っているのがわかった。
- ・自然を身近に感じた。生田緑地にこんなのがあったのかとはじめて知った。
- ・子どもたちに自然、緑を残していきたい。
- ・身近で豊かな自然を知ることがエコ教育の第一歩だと思えます。
- ・虫がきれいに自然と同化していることにとてもおどろいた。自然はいろんな知恵が働いていることがわかり、興味深かった。

感想

今回は、自然観察の疑似体験として、「よくみる」「肌で感じる」といった、私たちが持つ感覚を生かして、自然に親しめるような展示に工夫してみました。

多くの人に来ていただき、自然を紹介し、興味を持ってもらえて、とてもうれしいです。私たちはいつも、これからも自然について勉強中です。みなさんも一緒に考えたり、活動する入り口を探したりしていきましょう。そして、感動や驚きを一緒に分かち合っていきたいと思っています。来年はどうぞ、自然あふれる私たち自慢の西生田キャンパスにご来場ください。お待ちしております。

発行 特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-8 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp